

12/25

(木)

キリストの柔和さ

コリントの信徒への手紙Ⅱ一〇章一〜六節

さて、あなたがたの間で面と向かつては弱腰だが、離れていると強気になる、と思われている、この私パウロが、キリストの優しさで公正さをもつて、あなたがたにお願いします。(一)

パウロがコリント教会でどんなに苦しい立場に置かれていたか、ここにパウロに対する批判の言葉が記されています。パウロが面と向かつては弱腰に見えたのは、強く厳しい言葉を聞くに耐えうる信仰が彼らには備わっていなかったからです。牧会的配慮であるとも知らず、人々はパウロを見くびっていました。それでもなお、パウロは彼らに「キリストの優しさで公正さをもつて」語ります。パウロにとってコリントの信者たちは戦うべき敵ではなく、神から託された羊だったからです。そのパウロの目に映っていたのは、良い羊飼いである主イエスの姿でした。十字架に表されたキリストの優しさで公正さを思い起こすとき、パウロは同じような優しさをもって人々に接することができたのです。私たちのために人となられたキリストの柔和さを心に深く思い巡らそうではありませんか。